

第1回 孔内計測ワーキンググループ会議 議事録(案)

日時: 2003年10月17日(金) 13:00—15:00

場所: 海洋科学技術センター東京連絡所

出席者(敬称略)

共同ワーキンググループ長: 中村恭之(東大海洋研)

委員: 木口務(産総研)、倉本真一(JAMSTEC/CDEX)、佐柳敬造(東海大海洋研)、西将利(シユルンベルジェ)、モー・キョー・トゥー(JAMSTEC/IFREE)、山田泰広(京大工学部)
コンソーシアム担当者: 伊藤久男(産総研)、斎藤実篤(JAMSTEC)

事務局: 山川稔(AESTO)

欠席委員: 篠原雅尚(東大地震研/共同ワーキンググループ長)、日野亮太(東北大理学部)

議事内容

1. 委員紹介

- 自己紹介により出席者の紹介を行った。

2. 本ワーキンググループの設置、会則の確認等 (中村)

- 配布資料を元に、本ワーキンググループ(WG)の設置趣旨、コンソーシアムにおける位置づけなどが説明された。

3. IODP 孔内検層の国際対応について

1. ODP での検層に関して (中村、斎藤)

IODPにおける検層がどのように行われてきたかが説明された。

- Lamont Doherty 地球研究所 Borehole Research Group(LDEO-BRG)が担当。
- LDEO は英、仏、独、日の4カ国の研究機関と subcontract を結び、5カ国の研究機関によって検層を行う。日本は東大海洋研。
- これらの研究機関から Logging Staff Scientist を派遣し乗船。船上でのデータの一次処理までを行う。
- 乗船スタッフは、Operator (Schlumberger)—Logging Staff Scientist (LDEO-BRG グループ)—公募ベースの Logging Scientist という3層構造。
- 年に1度程度、subcontractor と LDEO-BRG の代表者による会議が開催され、予定されている航海への派遣者や、航海の結果などについて議論される。
- データ処理のためのソフトウェアが LDEO-BRG グループに支給されている。

2. IODP で non-riser 検層に関して (中村、斎藤)

IODPにおける non-riser 検層について現状での説明がなされた。

- 基本的に、ODP のスタイルを踏襲する可能性が高い。

- ODP での logging (sub)contractor グループが、Logging Consortium を設立中。
 - 現在のところ海洋研が Logging Consortium のメンバーとして入っている。
 - 現状では海洋研のメンバーでないと、Logging Staff Scientist として乗船できない。
 - 本 WG が Japan Logging Consortium(仮称)として、Logging Consortium のメンバーに入れるよう働きかけている。
 - 10/22 にアメリカで kick-off meeting が開催される。
3. IODP での riser 検層について (斎藤)
- ちきゅうによる riser 検層の際の体制について現時点での構想が説明された。
- Operator(3rd Party の検層会社)—Wellsite Geologist(CDEX)—CDEX Logging Scientist(仮称)—Logging Scientist(公募ベース)の 4 層体制を予定。Operator と Wellsite Geologist によって、データ品質管理および一次処理がなされる。CDEX Logging Scientist は Operator + Wellsite Geologist と Logging Scientist の間に立ち、core-log-seismic integration など専門的な知識と技術を要する仕事を行う。
4. これらの報告を踏まえ、IODP における検層に日本の研究者集団としてどのような体制で臨むかが議論された。
- 3 つの platform による検層が行われる場合、国内で少なくとも 5 人以上の乗船候補者をリストアップすることが必要である。
 - Core-log-seismic integration は非常に高度な技能を要する。国内でも数えるほどしか適任者が居ない。CDEX Logging Scientist の供給元となる研究者グループが必要。本 WG のメンバーや、Logging Consortium などが候補となりうる。
 - Core-log-seismic integration の training facility が必要である。この facility を用いた専門家の育成を行うことも必要である。
 - Non-riser(および MSP)に関して、現状の海洋研のみでは Logging Staff Scientist の派遣に対応できない。本 WG はコンソーシアムの組織であるため subcontractor となることは難しいが、本 WG を中心として海洋研以外の日本国内の検層にかかわる研究者を Logging Staff Scientist として派遣できるように Logging Consortium に要望する。
 - 国内的にも国際的にも検層実施体制の組織を検討する必要がある。
4. その他
- 次回は AGU 前の 11 月下旬開催の方向で日程調整を行う。